

ワールドカップ終幕

ワールドカップの結果は本紙の予想と大きく異なり、ブラジルもスウェーデンも決勝進出はならなかった。

からす新聞はあらゆる暴力に反対します。

よってジダン突きの図解入り詳説などは自粛します。



第8巻第7号
通巻第91号

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

毎度のことながら、ワールドカップが終わってしまつと、少なからず空虚な感覚に囚われて、日頃はせつかな私も暫くはぼつととしてしまふのが常。今年もそうなるのだろうかと思つていた。ところが、そうもいかなかった。私にとってはなかなか神聖なるサッカーというものを、阿部四郎が活躍していた頃の全日本女子プロレスと勘違いでもしたのか、フランスの抜け作が頭突きなどかましてね。しかも、それが何たることか、決勝戦なのだから、サッカーの神……そんなものがあるとして……を冒瀆する行為と言わずして何と言おう。最終的には、不逞なる野郎の所属するチームが負けて、勸善懲惡、悪は滅びるが必定、と、取り敢えずは、怒りが収まりかけたのだつたけれど、翌日以降のマスコミやFIFAの脳足りんな対応を見てみると、またまた怒りが沸々と込み上げ、地団駄を踏んだりして。おかげで、少しもぼつとできず、ましてや、安らいだ休養になる筈もなく、何とも不快な状態が続いた。どうにもこうにも後味の悪いワールド・カップとして記憶されることになったドイツ大会。

今日の紙面から

- 二面からすライブラリー)
 - CD『セイル・アウェイ』
 - 本『交換教授』
 - ドラマ『24』
- 三面
 - やぶ
 - 屈辱ゲーム



りしたものだから、尚更である。少しのんびりしなくては身体がもたない。冷やしたグリーン・マテ茶を楽しみながら、へらへらと温い時間を過ごしますかね、つてなことを準々決勝の辺りから企んでいた。余韻に浸るような姿を思い描いて楽しみにしていたのである。肉体を休ませながら、祭のあとの寂寥感や心虚るな感じをしみじみと味わおう、と。ところが、そこにまた一つ降って湧く。自主制作映画のエンディングの曲を超特急でつくらなければならなくなり、どたばたと忙しい日々が続くことになってしまった。精神的にも肉体的にもなかなか厳しい条件に囲い込まれた中での音楽制作は、やはり辛い、かなり辛い、ああ、とても辛い、というのが実感。もっとも、そんな状態でありながらも楽しめもしたわけで、音楽というのは何とも素晴らしい、とも言えそうだが……。

その猛烈な期間も無事に終わり、漸くのこと、寛げる時間が少しかつてきた。さて、そんなおり、人は何をやるだろうか。先に、ぼつとしたいなあ、というようなことを書いたけれど、私の場合、本当に何もせずにぼつととしているのは、実は苦手である。無の境地を味わうことのできぬ未熟者なのでしょう。何もしていないのは大きなストレスになる。本を読んだり音楽を聴いたり、映画を見たり落語に耳を傾

(最終面に続く)

からす新聞は××××

が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できません(無茶じゃない範囲で)。

『Sail Away』

Randy Newman

Reprise/Rhino、1972年、8122-78244-2



CDs

いまだきこんなのを持ち出してくるのかよ、という声が聞こえそつだ。そんなだけれども、暫く振りに「Political Science」を聴いてみて、ああ、Randy Newmanも捨てたもんじゃないよなあ、とつくづく感じ入った私がここにいる。アメリカにだって気の利いたやつがあるもんですなあ、と君だっと思ってたろう。今の時代にこそ聴かれるべき歌じゃないか。

そつだ。この曲を各国の親玉連中の集まるような機会、例えば、サミットのテーマ・ソングにしようではないか。で、みんなで肩を組んで唄うわけですよ、「Let's drop the big one now」って。どうだい？

ああ、でも、某ブッシュのような脳足りんには皮肉が通じず、みんながそんなに言うなら一発落としてやるよってなことになったりしかねないか。笑えねえなあ。

(全木)

Changing Places

David Lodge 1975

交換教授

デヴィッド・ロッジ

白水社 1984 ASIN: 4560070598



Books



誰彼かまわずおちよくりまくるコメディ。一九六九年、アメリカで反戦と女性解放の両運動が絡まりつつ盛り上がりつつあったとき、英スワロー・米ザップの二人の英文学教授が双方の大学に一年の「交換教授」として派遣される。まず、スワローはザップのヒッピー風の娘と寝てしまう。ザップは機中で知り合ったメアリー・メイクピースを、イギリスに中絶しに来たはずの Makepeace を、スワローの女房に預けてしまう。そんなこんなで文化も女房も交換してしまう二人。

途中、新聞雑誌記事の抜粋だったり、夫婦二組の書簡のやりとりになったり、また映画のシナリオ風になったりするものがそれぞれ効果を上げていて面白い。当時の「ウーマン・リブ」の雰囲気を知る一助にもなるだろう。

(望月)

24 -TWENTY FOUR- Season 5

2006年9月2日レンタル開始

(シーズン1から4はレンタル中)

DVD: FXBA-33007

(20世紀フォックス・ホーム・エンターテイメント・ジャパン)

監督: ジョン・カサー

出演: キーファー・サザーランド



Dramas



「24」とはなんぞや、、、。既にかかなりなメジャー作品になっているのでご存知の方も多いかとは思いますが、ここでおさらいを。数年前のシーズン1が全米でテレビ放送された時から斬新な手法で話題になった作品。主人公のジャック・パウアー捜査官はCTU L.A. 支局の主任。CTUとはテロ対策ユニット(国内のテロリズム専門の捜査機関)の事。シーズン1では米大統領候補の暗殺計画を阻止する事に。阻止までの時間の猶予は24時間。その24時間を1時間ごとに区切り、24回に分けて放送するという手法となった。要はジャックの24時間を毎週1時間づつリアルタイムとしてじっくり半年間(24週)に渡って追って行くというもの。シーズン2では核爆弾が米国内に持ち込まれ爆発までの猶予は24時間、シーズン3では細菌テロ、シーズン4では原子力発電所のメルトダウン(炉心溶解)を狙うテロ、そしてシーズン5ではジャックの行方を知る者たちが次々と暗殺の対象になっていく、、、というそれぞれの24時間。

シーズンを重ねるとどうしてもマンネリになりがちなドラマが多い中、こいつは、あの手この手で観る者をいつもハラハラドキドキさせてくれること請け合い。脇を固めるキャラクター達もしっかりしていて秀作と言えるだろう。レンタルで見始めると、どんなに睡眠不足になるうがついつい最後まで一気に観てしまうのでお気をつけあそばせ。

「This is the longest day of my life!」

(小張 寅僧)

やぶ

ここ数年、何故か夏になると病気やケガをしてきている。今年も運悪くその例に当てはまってしまった。二週間ぐらい前に、痛めたかな？ぐらいの自覚はあったのです。何となく痛かったもののひどくなる様子も無いので放っておいたら、ある晩スキスキと痛み始めて次の日にはもう結構痛い。だんだんと痛みは増し、その日の夜にはかなりひどい痛み。左の手首の少し上、手のひらの一番下。どうやら小指から伸びた骨が手首に到着するあたり。何ナノだるう？間接なのか。財布を持ってただけで激痛。とうとう、一定の角度に保ったまま痛くて動かせなくなってしまうぐらいになってしまった。何となく腫れて来ている。そんな訳で、これ以上放って置かず、次の日の朝に病院に行った。考えてみれば、随分と近所にあるのにこの野×外科に

かかるのは初めて。そして、レントゲンを撮ってもらったところ骨には以上なし。血液検査は、先生いわく、痛風ではない事は分かりました、との事。じゃあ、何だったのだ？とか疑問に思ってみても、いまいちはっきりしない。原因がはっきりしないのがいけないんだらうか。にしたって、腫れがひどく、熱を持っていて普通にしても痛い。とりあえず、炎症を押さえる飲み薬と湿布を一週間分もらいました。安静にして冷やす事とのアドバイス。

うーん、どうなのだろう。やっぱり、この野×外科はうわさ通りヤブなのだろうか？言われてみれば、余り八キ八キとした感じの印象のない先生ではあった。しかし結論から言えば、約二週間その炎症を押さえる薬と湿布で、手は治ったので何にも文句はない。原因が分からなくたって治ってしまえばこっちのもの。やっぱり薬って凄いなあ、と感心は薬に向かってしまふ。

その言えば、ヤブ医者と言えば昔、まだ僕が小さかった頃この野×外科のとなり田×医院という小さな診療所があったのを、ふと思い出した。この田×医院はおばあちゃん先生が院長で、どういつかやっぱり、ヤブ医者だとの噂があった。僕も一、二回そこにかかった事があり、今思えば、凄く面白くて個性のある先生だったような気がするんだけど、何だか凄く変わった感じの、婆ちゃん先生だったのを覚えている。ヤブだとの噂の所為か、子供の目には何だか魔女のような印象に映った。それでも、僕の兄貴の事なども覚えていて僕をからかうその婆ちゃん先生を、少し恐れながらも僕は何となく好きだった気がする。

(神山)

the Game “Humiliation”

屈辱ゲーム

デヴィッド・ロッジの『交換教授』*の一方の主人公である英文学教授フィリップ・スワローが考案したゲーム“Humiliation” = 「屈辱」。*からす Library 参照

Each person had to think of a well-known book he hadn't read, and scored a point for every person present who had read it.

自分の読んでない有名な本を思い浮かべ、その場に居る全員がそれを読んでいたら、ポイントをゲット。

本の中では、熱くなりすぎて「ハムレット！」なんてつい正直に言っちゃった重鎮教授が出てきたりするわけだが、このゲーム、読書家を自負する人たちが集まってこそ、「屈辱」になる。本嫌いがその中に入っても、場が白けるばかりに違いない。

しかし何も本じゃなくてもいいはずで、つまりは誰もが知っていることを私は知らないんです、ってことであればよいのである。

先日、今の私に輪を掛けた本嫌い、つまり二十歳の頃の自分のような二十歳前後の大学生男女4人と飲む機会があった。こいつらの飲み会ってどう進行するのかまったく理解に苦しむほど話題が続かないので、屈辱ゲームを紹介してみた。ゲームを始める前に、ために有名な本についてどのくらいのことを知ってるのか調査した。

『罪と罰』

「あの、宇宙に行っちゃう……」

とはM大英文学科のK君。なるほど、私の「おお、知ってるじゃん」に(へえ)って顔した残り3人もみな当時の私だ。

ではゲーム開始、と行きたいんだけど、どのジャンルにすればいいかわからない。

『千と千尋の神隠し』

と私。別に観てないからと言って恥ずかしくもなんともないが、取り敢えず言ってみた。結果4分の2。映画もあんまり観ない、偶然そういう人たちが集まってしまったようだ。

常識...じょうしき...大人が有利でないジョーシキ.....、そうだ、漢字の書き順なんてどうだろう。私にはどういうわけだかいつまでたっても頭に定着しない書き順がある。「左」と「右」だ。筆記用具を用意してみんなまで書いてみたところ、「右」の「ノ」を先に書いたのが単なる偶然だったのは私だけで、ポイント・ゲット。しかしこの先どうにも続きそうもなく、自虐ネタ得意の私がイギリス寄りなら、こいつらアメリカか？いや、それほど陽気でもないしなあ。いずれにせよ

You have to humiliate yourself to win.

こういうことには慣れていないようである。私がいるからかどうか知らないが、会話の薄い飲み会自体程なく続かなくなり、カラオケ屋に移動すると、若者たちは楽しそうに会話もなく朝までひたすら歌い続けるのであった。

(望月)

(一面から続く)

けたり、と受動的ながらも何かしらしてしま
う。そんなことをしているうちに、ひよこつと
アイディアが湧いてきて、マックの前に座った
り、紙にあれこれ書きつけてみたり。休養に
なっているのかどうかは甚だ疑問。傍の人の目
には、この人は一体何をせかせかしているのだ
らう、と映るのではなからうか。しかしなが
ら、これは生まれ持った性分ゆえどうともしよ
うがない。そんなわけで、休養と称して、EC
がいうところの兎小屋の中を、私は今日もうる
つき回る。もっとも、実際の兎はそんなにせか
せかしてはいなさそうだし、私の家は寧ろゴキブ
リホイホイに似ているのだけれども。

肉体を休養させるのは、例えば、眠るなり、
木陰でじっとしているなり、栄養のあるものを
食べるなり、とそれなりの方法が選べそうだけ
れど、精神の休養となると話は難しい。何も考



万年筆なら dani

<http://danijapan.com/>

ampm marusho
あいロード商店街
新井薬師前駅→

早稲田通り
中野通り
中野ブロードウェイ
中野駅↓

bar&kitchen
Kanna

営業時間
平日・土曜日
11:30~15:00 / 17:30~25:00
日曜日
17:30~25:00

定休日
毎週火曜日 & 毎月第3日曜日

中野区新井1-30-6
第1三宮ビル1F
Tel : 03-5343-1316

bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、パーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。

えすにほけーつとしているのが休養だという人
もいるだろうけれど、そういう方法ではストレ
スになり、精神の疲労が弥増してしまうという
者だっているのである。リフレッシュするはず
の連休や夏休みに、かえって疲れてしまうとい
うことも多々あるわけで、自分に適した効率の
良い休養の方法を模索するということは、人類
にとつて非常に重要な課題なのではないか。
……そんなことを漠然と考えながら、我が家の
でぶ猫が広場でじっと寝そべっているのを眺め
ていた。ある日の夕刻。目は開いているような
閉じているような。快適な気候でうつらうつら
しているのだらうなあ、と私の目には映ってい
た。暫くして、椋鳥がとつと近づいてきた
刹那、ジャンプ一番。危ういところで飛び立つ
た鳥は公孫樹の木の上に舞い上がり事無きを得
たけれど、でぶ猫様はほんやりと眠っているよ
うに見えるいても、周囲への警戒は怠っていない
のだなあ、と思ひ知る。野性とは程遠い我が

家の猫でさえ、ああなのだから、野性に生きる
ものたちにとつては、本当の休息の時間など存
在しないだろう。彼らにとつての完全な休息は
生命の危機を意味するだろうから。それに引き
換え、人間ときたら、臆出して、寝かいて、たま
にお尻をぼりぼり掻いたりして。その無防備な
寝姿はみっともない。物騒な世の中とはいえ自分
んちの中では安眠できる程度には私たちの社会
が平和だという証拠でもある。善くも悪くも致
し方なし。

眠りを装いながらも周囲での出来事に警戒の
耳を澄ましているでぶ猫の様に一つの気づき。
精神の休め方を探求しなくてはならん、などと
いう考えを玩んでいるようでは、まだまだ
貴様の精神には余裕があるだらうよ、とその姿
は訴えている。御尤も。さて、もう少し、じた
ばたしますかね。

(全太)



Ken-ichi Shinozaki,
architect

Voice : +81-3-3220-0644
Facsimile : +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ

編集後記
からす新聞第八巻七号(通巻第九十一号)、無
事、発行できました。
新聞に限らず、これからも新企画目白押しな
ので、みなさんの御協力をお願いいたします。
御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。
次号発行予定日は二〇〇六年八月二十五日
です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱
烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

ファミマ

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺
ファミマ
おうめかいどう
中野板上駅

ファミマ